

「動物福祉」食品で広がる

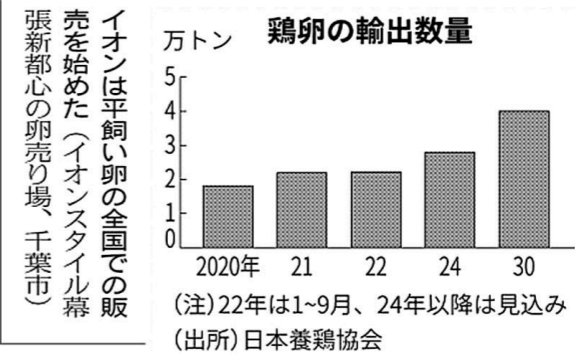
イオン ケージなし鶏卵 全国で
日本ハム 妊娠中の豚おり見直し

食品や小売業界で家畜を快適な環境で飼育する「アニマルウェルフェア（動物福祉）」への配慮の動きが広がってきた。イオンは自社ブランドなどで平飼（ケージなし）卵の全国展開を始めた。アニマルウェルフェアは欧米で先行するが、環境や社会に配慮した商品が好む「エシカル消費」の波が日本にも押し寄せている。国内市場が縮小する日本が食料品の輸出拡大をめざす上でも対応が急務になっている。

「卵はほぼ毎日食べている。多少高くても家族のために安心・安全なものを買いたい」。都内のイオン店内で平飼卵を手にとった女性はこう話す。イオンは11月、プライベートブランド「トップバリュ」などで平飼卵の全国販売を始めた。販売伸びが大きく、複数の商品展開があるが、価格は6個入りで248円（税別）から、一般的な卵の約5割高だ。卵は「物価の優等生」と呼ばれるように消費者が価格に敏感な商品とされる。だが、イオンは「売れ行きは計画通り。生産体制を今後さらに拡充する」と手応えを語る。

日本は鳥かごに鶏を詰め込み、身動きがほとんどできないなかで飼育する「ケージ飼育」が9割

輸出拡大、エシカルがカギ



企業の主な取り組み	
イオン	平飼卵を自社ブランドなどで全国展開
キューピー	平飼卵を使ったマヨネーズを販売
日本ハム	妊娠中の豚を閉じ込めるおりを全廃へ
伊藤ハム米久HD	NZの食肉加工場に監視カメラ設置
ユートピアアグリカルチャー（北海道日高町）	放牧牛乳などの定期購入サービス
ファーマーズホールディングス（広島県府中市）	牛1頭ずつセンサーで飼育環境を管理

超を占めるとみられる。欧米では動物愛護の観点から英国など一部の国では禁止されている飼育方法だ。一方、平飼いは生産効率の面では劣るものの、鶏がストレスなく自由に動き回れて健康的になり、味などもより良く

ドなどによる全国展開に踏み切った。足元で平飼卵の国内市場シェアは1%未満とみられるが、販売伸び率で見ると通常の卵を大きく上回る。日経POS（販売時点情報管理）データで商品名に「平飼卵」などの表示をした商品の2022年11月の販売数量は前年同期比34%増だった。卵全体の販売数量が同3%減だったのとは対照的だ。平飼卵を使った商品も増えている。キューピーは「平飼卵マヨネーズ」

「ズ」の展開を21年末に始めた。ネット販売に限定し、参考小売価格も533円と主力の「キューピーマヨネーズ」（200g）よりも2倍ほど高いが販売は順調という。日本はオーストラリアや欧米に比べて国土面積が狭い。広い敷地が必要な放牧や平飼いなどアニマルウェルフェアの環境整備が進んでこなかった面もある。だがここにきて取り組みは豚や牛などにも広がりにつつある。ESG（環境・社会・企業統治）への対応を重視する投資家からの圧力なども背中を押す。

全農場にカメラ 日本ハムは23年度末までに、国内の全農場・食肉処理場に養豚と肉牛の飼育環境を確認するカメラを設置する計画だ。さらに30年度末までには妊娠した豚を狭い場所に閉じ込めて飼う「妊娠ストール」の全廃を目指す。同社は21年11月にアニマルウェルフェアを推進する自社のポリシーとガイドラインを策定した。井川伸久副社長は「（食肉が）栄養素や味に優れているなどの付加価値で消費者の購買につなげ、ブランド化していきな

ケージ禁止 EU、法令提案へ 欧米ではアニマルウェルフェアの取り組みが国や企業単位で先行する。欧州連合（EU）の欧州委員会は21年、畜産業のケージ使用を段階的に無くし、最終的に禁止する法令を23年末までに提案することを決めた。養鶏や養豚、ウサギなどが対象だ。米スターバックスは米市場で21年までに卵のほぼ全量をケージ飼育ではないものに切り替えた。小売り大手の米ウォルマートも25年までに同様の対応を完了する方針だ。日本では21年の東京五輪・パラリンピックの選手村の食事に對し、NPOや元選手がアニマルウェルフェアの対応遅れに抗議するという事例もあった。世界的な潮流と歩調を合わせられるのか。国や企業の本気度が試されている。（京塚環、篠原英樹、八木悠介）